News of the forest

岐阜県の森林・林業

森林のたより

No.760
2017 January
1

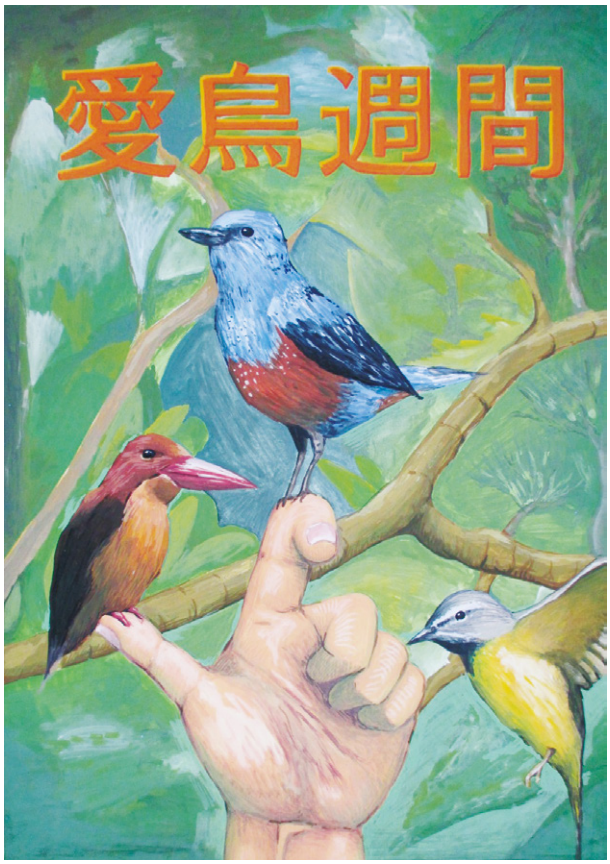
FREE
ご自由に お持ちください。

平成28年度
岐阜県愛鳥週間ポスターコンクール
入賞作品が決定しました。

最優秀賞

【中学校の部】
岐阜市立東長良中学校　２年
小寺 崚介さん

最優秀賞



【高等学校の部】
県立岐阜総合学園高等学校　２年
飯田 匠さん

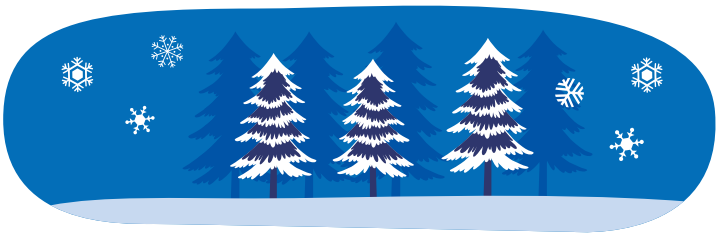
●中学の部、高等学校の部の「最優秀賞」作品。
（詳しくは5ページ）

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
http://www.g-forestry.or.jp （公社）岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

森林・林業関係イベントカレンダー（1月～2月）

一般向け

開催日	行事名等	内　容　等 （概要、定員、受講料、申込期限など）	開催場所 問い合わせ先
1月28日㈯	**100年先の森林づくりシンポジウム「ともに考える『森』、これからの100年」**	●時間：13:00～16:00 ●内容：全国育樹祭で発信した、次の世代に豊かな自然を引き継ぐ「100年先の森林づくり」について、県民のみなさんとともに考えます。 ●定員：450名（要事前申込・先着順） ●参加費：無料 詳しくは5ページをご覧下さい。	ぎふ清流文化プラザ「長良川ホール」（岐阜市学園町3-42） 林政課森林計画係 TEL 058-272-8471
2月3日㈮	**平成28年度森林・林業合同発表会**	●時間：10:30～16:00（終了予定） ●内容：林業普及指導・森林研究所、農林高校生等森林林業関係者による合同発表会 ●定員：300名（当日参加可能）	関市わかくさ・プラザ多目的ホール（関市若草通2-1） 森林文化アカデミー内 森林技術開発・支援センター TEL 0575-35-2535
2月7日㈫～2月22日㈬	**平成29年度森林文化アカデミー入学試験（第4回）願書受付期間**	●森と木のエンジニア科（一般入試3）3月4日（土） ●森と木のクリエーター科（一般入試4）3月5日（日） ●エンジニア科（一般入試3）、クリエーター科（一般入試4）については第3回の入試の結果、定員数を満たしている場合は、実施しません。学科ごとの入試の有無については、1月27日（金）以降にホームページ（http://www.forest.ac.jp/）で公表します。 ●入学願書（学生募集要項）については、ホームページ（http://www.forest.ac.jp/）からダウンロードできます。	森林文化アカデミー 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525



岐阜県の森林・林業
News of the forest
森林のたより
No.760 1
2017 January

表紙●愛鳥週間ポスターコンクール　中学校、高等学校の部の「最優秀賞」作品

目次 Contens

イベントカレンダー（一般向け）……2
年頭のご挨拶　岐阜県　林政部長　瀬上　繁隆……3
新年のご挨拶　（公社）岐阜県山林協会　会長　日置　敏明……3
山の歳時記(137)　春の七草……4
100年先の森林づくりシンポジウム……5
平成28年度愛鳥週間ポスターコンクール入賞作品が決定しました！……5
WOODコレクション（モクコレ）2016 in名古屋を開催しました……6
森林技術競技会開催報告……7
平成28年度 治山林道工事等コンクールの林道工事部門で㈱中島工務店が「農林水産大臣賞」を受賞！……7
森林と人を活かす知恵(49)　「虫の家」から見えてくる世界……8
シリーズ：『森林・環境税』で、緑豊かな清流の国ぎふづくり!(9)……9
ぎふ森林づくりサポートセンター……10
地域の人　『東濃地域の林業を支える若い力』（その3）……11
木の香るぎふの施設(49)　おひさまの微笑み……12
「ぎふの木づかい施設」を認定しました。……13
山のおじゃまむし(306)　―叔父さんの遺書、ミヤマカラスアゲハ―……14
わがまちの森林・環境行政　郡上市の山づくり……15
普及コーナー　岐阜県のきのこは私が守る
～孤軍奮闘！きのこの普及指導～……16
研究コーナー　ツリーシェルターの耐雪性（Ⅱ）
―緩傾斜地（傾斜15°未満）での事例―……18
国有林の現場から(4)　国有林見学ツアーの開催と広報活動の強化……19
治山・林道研究課題　林道下呂～萩原線における崖錐帯区間の設計検討について……20
平成28年度 第55回治山研究会中部支部技術（設計・積算）検討会に参加しました。……21
林業者向けお知らせ……21
市況……22

年頭のご挨拶

岐阜県 林政部長　瀬上　繁隆

平成29年の年頭に当たり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

貴協会の皆さまには、日頃から岐阜県の森林・林業行政の運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、昨年は、全国育樹祭から1周年、全国植樹祭から10周年に合わせて記念大会を開催し、豊かな森林を次世代へつなぐ大切さを再び発信することができました。ご協力を賜りました関係者の皆さまに、この場をお借りしまして、お礼を申し上げます。

さて、今年度は、第2期岐阜県森林づくり基本計画の終期にあたり、次期計画の策定を進めてまいりました。

現在、県内の森林は、戦後造成した大半の人工林が本格的な利用期を迎える一方で、若い森林が少なく、いわば「少子高齢化」が進んでいます。将来は、林業経営が困難になることはもとより、水源涵養機能、防災機能など森林の公益的機能の維持が困難となることが予想されます。このため、今や、森林資源を有効に活用しつつ、同時に、未来に向かって森林づくりをどうするべきかを考える時期が来ています。

そこで、次期計画では、これまでの林業経営を重視した「生きた森林づくり」と環境保全を重視した「恵みの森林づくり」に加え、新たに「100年先の森林づくり」に取り組んでまいります。

「100年先の森林づくり」では、人の活動に寄り沿う観点から、森林を「木材生産林」「環境保全林」「観光景観林」「生活保全林」の4つに区分して森林配置基準を示すこととしました。これに基づき、地域のための森林配置計画となるよう、今後5年間、市町村と協力して森林配置計画の策定を進めてまいります。

そして、この計画を実行していくため、苗木の生産、補助金の県単嵩上げによる再造林対策等の森林整備への支援、これを支える人材の育成、獣害対策も含めた育林技術の普及を行ってまいります。さらに、昨今、日本各地で地震やゲリラ豪雨等による災害が多発している現状に鑑み、緊急輸送路の地震防災対策など「災害に強い森林づくり」についても強化してまいりたいと考えております。

また、貴協会をはじめ皆さまから継続のご要望をいただいておりました「清流の国ぎふ森林・環境税」につきましては、昨年12月の岐阜県議会の議決を経て、平成33年度までの5年間の延長が決定いたしました。これまで、水源林や里山林の整備、野生生物の保護管理、里地や身近な水辺の保全等に活用してまいりました。今後は、都市部の住宅団地周辺にある危険木の除去に対する支援制度を設けるとともに、鳥獣被害対策では捕獲対象をカワウにまで拡大し強化するなど、事業の一層の充実を図り、地域の実情に合わせ、市町村や団体による取組みを積極的に支援してまいりたいと考えております。今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。

結びになりますが、本年が未来に向けた森林づくりの第一歩として素晴らしい年となりますよう祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

(公社)岐阜県山林協会　会長　日置　敏明

新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申しあげます。

さて、平成28年もさまざまの出来事がありました。

世界をみれば、英国の国民投票によるEU離脱決定や米国大統領選挙におけるトランプ氏の勝利など、大方の予想を覆す動きが顕著でした。こうした動きは、我が国の社会・経済にも、今後大きな影響を与えると考えられます。

我が国では、2015年国勢調査結果の確定値が公表され、1920年の調査開始以来、初めて日本の総人口が減少し、また、首都圏を中心に人口が増える一方、地方で減少しており、二極化がさらに強まったと分析されています。

一方、訪日外国人数は、10年前の平成18年には733万人でしたが、28年には10月末時点で2千万人を超える状況になっています。さらに、こうした外国人観光客の関心が、都会でのショッピングから、地方の自然、文化、食へ移りつつあるとも言われています。

岐阜県では、世界農業遺産に認定された「清流長良川の鮎」、ユネスコ無形文化遺産に登録された「本美濃紙」、「高山、古川、大垣の祭り屋台」など、岐阜県の豊かな自然・文化の魅力を発信しての観光に力が注がれています。

しかしながら、山村地域では、高齢化、人口減少が進み、野生鳥獣の被害の増加など様々な課題に直面しています。

地域を活性化させる手段の一つとしての観光においても、特定の場所、時期に限られ、四季折々の山村地域の豊かな自然と文化を観光に結びつけるまでには至っていません。

木材生産の増大による林業・木材産業の活性化はもとより、野生鳥獣の食用への活用、集落周辺の里山の整備などにより、そこに住む人たちが安心して暮らし、また訪れる人たちにも魅力ある地域とするための取り組みがさらに必要です。

一方、自然災害の脅威も忘れるわけにはいきません。昨年4月の熊本地震や10月の鳥取での地震、11月の東北での地震など、地震が多発し、各地の火山も活動が活発化しているように感じます。また、8月には観測史上初めて東北に台風が上陸し、東北地方や北海道に大きな被害をもたらすなど甚大な自然災害が発生した年でもありました。

29年度は、清流の国ぎふ森林・環境税の第2期がスタートするとともに第3期岐阜県森林づくり基本計画が始まります。

森林、林業、山村地域の活性化のための取り組みがさらに進むことを期待するところですが、こうした取り組みが成果を上げるためには山村に住む人ばかりではなく、都会に住む人々の理解や協力が欠かせません。

県民の皆さん一人ひとりの理解や協力により、森林を守り、山村地域を活性化させることが、「清流の国ぎふ」づくりの根幹ではないかと考えます。

山林協会としましても、この「森林のたより」などを通じ、森林を守り、山村地域を活性化し、清流を保全する「清流の国ぎふ」づくりのための取り組みをお知らせしていきます。

皆様方の一層のご支援をお願いしますとともに、新しい年が皆様方にとって幸多い年でありますことを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

山の歳時記 137

YAMA NO SAIJIKI

春の七草

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

正月気分も終わり仕事に本腰を入れる頃、毎年報道では「春の七草」が取り上げられます。

春の七草と言えば、昔は学校などで、「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ」と習ったものです。

七草のうち、セリとナズナは標準和名ですが、他は私たちが普段使わない植物名で、ゴギョウはハハコグサ、ハコベラはハコベ、ホトケノザはコオニタビラコ、スズナはカブ、スズシロはダイコンです。

この名には古（いにしえ）の風習が隠されており、一例を示すとゴギョウは漢字で御形と書き、オギョウとも言われます。またハハコグサの方言にホーコの呼び名があり、漢字で這子と記され、これは赤ん坊の傍らに置く人形の影響が窺えます。這子は子供の災難除けの白い形代（かたしろ）という身代わり人形を指し、母子から変形した呼び名と考えられています。また紙や白い衣が高価であった時代には、庶民は白いハハコグサで身体を撫で、穢（けが）れや罪を祓う形代として川に流しました。キク科の越冬草であるハハコグサの母子の名からして、形代は母と子の身代わりとして御形と呼ばれたのです。

七草の習慣は古く、万病を除くものとして旧暦正月の初めての子（ね）の日に野山で若松を引き、若菜を摘んで、羹（あつもの）という汁物にして食べた「子の日の遊び」に起源があるそうです。

当時は心臓に良いとされたマツの新芽を食用にし、子の日の「ね」と「根」をかけて、その日に根を引くと根が伸びることから、年を延ばし縁起が良いと考えられたのです。その際に引いてきた若松の新芽と若菜を食べた習慣が、室町時代以降に粥を食べる風習と一体化し、年中行事の一つとして、正月七日に七草粥を食べる習わしが定着したのです。

日本の書物では「皇太神宮儀式帳（804年）」に、正月七日に菜を食べることが記されています。七種に定着するのは平安時代からで、清少納言の「枕草子」や紀貫之の「土佐日記」にもその名が見られます。

古代、中国では正月7日の人日（じんじつ）に、七種の菜で羹をつくり食べることで、若菜の息吹、生命力を身体に取り込む呪術的な要素が強かったようです。江戸時代には徳川幕府が正月7日を五節句の一つとし、「若菜節」、「七種の祝」と定め、この日に諸侯は登城して祝儀を言上し、将軍以下みなで七草粥を食べたそうです。

▲冬に見るハハコグサ

100年先の森林づくりシンポジウム

ともに考える「森」、これからの100年

～人と森との新たな関係づくり～

森林が県土の8割を占める岐阜県では、豊かな森林を次の世代に引き継ぐことが重要な課題です。
今回、「人と森との新たな関係づくり」をテーマに、幅広い専門家の方をお迎えし、県民のみなさんとともにこれからの森林づくりを考える機会としてシンポジウムを開催します。

参加者募集
入場無料 定員450名
要事前申込・先着順

日時 2017 1/28(土) 13：00～16：00 （受付12：00）

場所 ぎふ清流文化プラザ　長良川ホール （岐阜市学園町3－42）

プログラム

■人と水から森林を考える
『あまたつと考えよう、水・森の未来』
天達武史［気象予報士］

■人と教育から森林を考える
『自然の中の子育ての魅力
～森のようちえんの現場より～』
浅井智子［自然育児 森のわらべ多治見園園長］
宮本英樹［どさんこミュゼ㈱　代表取締役社長］

■人と自然の共存から森林を考える
『神宮宮域林、200年の森づくり』
笹岡哲也［伊勢神宮　神宮司庁 営林部長］

■人と森林との新たな関係を考える
『100年先に向け、人と森をつなぐ』
パネリスト　笹岡哲也［伊勢神宮　神宮司庁 営林部長］
天達武史［気象予報士］
浅井智子［自然育児 森のわらべ多治見園園長］
コーディネーター　奥　敬一［富山大学芸術文化学部准教授］

［お申込み方法］
代表者氏名・連絡先電話番号、所属、参加人数、同伴者氏名を明記のうえ、FAX、電子メールにて下記までお申し込みください。

［お申込み締切］
1月20日（金）

［お申込み先］
100森シンポジウム申込み事務局
（株式会社セレスポ内）
FAX 052（771）6530
E-mail：100mori@ceresspo.co.jp

●参加者には記念品プレゼント！
●抽選で20名に県産材木製イス
●無料託児サービスあり

［無料託児サービスについて］
●完全予約制・当日受付不可
●申込期限：1月17日（火）12時
※定員（25名）に達ししだいお断りする場合があります。
申込・お問い合わせ
TEL058－272－8471
（岐阜県庁林政課　担当：大島）

平成28年度

愛鳥週間ポスターコンクール入賞作品が決定しました！

国民の愛鳥保護思想を高めるために定められた「愛鳥週間」（昭和25年制定　毎年5月10日～16日）の普及・宣伝のため、県内の小中学校、高等学校、特別支援学校の児童・生徒を対象として、県主催による「愛鳥週間ポスターコンクール」を毎年実施しています。
今年度は、506点の応募があり、審査の結果、入賞作品60点が決定しました。

最優秀賞（中学校の部、高等学校の部の2点は表紙に掲載）

【小学校低学年の部】
大垣市立東小学校　3年
服部　泰治さん

【小学校高学年の部】
各務原市立蘇原第二小学校　4年
浅野　太志さん

優秀賞

【小学校低学年の部】
大垣市立中川小学校2年　安立　桜子さん
養老町立上多度小学校2年　河野　菜月さん

【小学校高学年の部】
瑞穂市立牛牧小学校4年　大野　桃果さん
岐阜市立加納小学校6年　名知　希深さん

【中学校の部】
池田町立池田中学校1年　平本ちありさん
関市立緑ヶ丘中学校3年　柳沼　至さん

【高等学校の部】
県立岐阜総合学園高等学校2年　佐藤　里音さん
県立多治見工業高等学校2年　大内田晏奈さん

入選以上の作品24点を、1月6日（金）から12日（木）まで岐阜県図書館（岐阜市宇佐4-2-1）にて展示しています。
※最優秀・優秀作品の中から、平成29年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール（主催：（公財）日本鳥類保護連盟）へ推薦したところ、次の方の受賞が決定されました。
【小学校の部】　入選　大垣市立東小学校　3年　服部　泰治さん

【自然環境保全課　大野 文雄】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8231 自然環境保全課まで

WOODコレクション（モクコレ）2016in名古屋を開催しました

平成28年11月29日（火）と30日（水）の2日間、名古屋市港区金城ふ頭の「ポートメッセなごや」において岐阜、愛知、長野の3県合同による木材製品展示会「WOODコレクション（モクコレ）2016in名古屋」を開催しました。

木曽川や矢作川などの流域で結ばれたこの3県は、歴史的にも上下流の林業・木材産業が一体となって発展してきた地域です。「モクコレ2016in名古屋」は、林業・木材産業の振興を通じて森林の多面的機能の発揮や地域社会の発展を目指す共通理念のもと、今回初めて3県合同の地域材利用促進・木材産業振興のためのイベントとして開催しました。

建築事務所、工務店をはじめ木造住宅に携わる関係者など、愛知県内を中心に両日合わせて約1，000名の来場者を迎え、地域材製品のPR、商談等が実施され盛況のうちに開催することができました。

県では、今回の「モクコレ2016in名古屋」をはじめ、木造住宅の建設需要の伸びが期待される中京圏や首都圏をターゲットに、リフォーム需要も視野に入れながら、岐阜県産木材製品の販路拡大につながる施策を進めていきます。

今回ご出展いただいた企業・団体のみなさま、ご来場者のみなさまをはじめ、モクコレ2016in名古屋の開催にあたり、多くの方々のご協力を賜りました。この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

来場者で賑わう会場の様子

県立森林文化アカデミー小原准教授による基調講演

【県産材流通課　吉峯 昭英】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3013)県産材流通課まで

森林技術競技会開催報告

去る11月12日(土)に県立森林文化アカデミー　テクニカルセンター前広場において、岐阜県森林技術競技会実行委員会主催による森林技術競技会が開催されました。

この競技会は、森林技術及び安全作業の向上を図るとともに、将来の林業を担う若手の育成を目的として開催されたもので、今回は、チェーンソー技術を競いました。

競技種目は「丸太の水平切り」、「枝払い」、「丸太の合わせ切り」の3種目で、それぞれの作業の確実性、安全性について審査項目を設け、定められたルールに違反した場合は、ペナルティとしてタイムに換算し、スタートからゴールまでのタイムに加算した総合タイムで順位を競うものです。

選手を代表して㈱山田林業の土井憲二さんの宣誓の後、総勢16名の選手が二人ずつでチェーンソーの操作技術に挑みました。

会場には、選手の会社の同僚や家族等も応援に訪れ、選手もはりきって競技に参加できたものと思われます。

表彰式では、優勝、準優勝者に、伊藤委員長(一社)岐阜県森林施業協会会長)より県産材ヒノキの表彰楯が授与されました。

選手に対する競技後のインタビューでは、「観客の目の前で技術を披露する機会はないため緊張した」、「枝払いが難しかった」といった意見が多かったほか、「他の技術者との交流ができてよかった」、「他の選手の技術力を見て、もっと頑張ろうと思った」といった意見も聞かれました。

最後になりましたが、競技会の開催に当たりご協力いただきました関係者の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

【森林整備課　増田　龍太】

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 058-272-1111内線(3198)
森林整備課まで

■上位入賞者および結果

優　勝	グリーンクリエイト㈱	田中　敏晴	総合タイム37.65秒
準優勝	飛騨高山森林組合	厚地　雄三	総合タイム39.91秒
第3位	㈲大原林産	藤吉　智志	総合タイム46.06秒

平成28年度

治山林道工事等コンクールの林道工事部門で

㈱中島工務店が「農林水産大臣賞」を受賞！

毎年、(一社)日本治山治水協会、日本林道協会の主催により開催されている治山林道工事等コンクールの第32回民有林林道工事コンクールにおいて、林道「尾城山線」※(5工区)の工事を実施した㈱中島工務店(中津川市)が農林水産大臣賞を受賞し、12月1日、東京において開催された表彰式で、林野庁沖次長から中島紀干代表取締役に賞状が授与されました。

当工事は、出来型管理において、県が定める規格値よりも厳しい社内目標値を設け、全ての工種において、その目標値をクリアしており、出来型の美観面においても優れていることから岐阜県山林協会から日本林道協会へ推薦したものです。

他の部門においては次の方々がそれぞれ受賞されました。

●第39回林道維持管理コンクール(日本林道協会長賞):
中津川市長(林道　源根線)

●第32回民有林治山工事コンクール(日本治山治水協会長賞):
日下部建設(株)(下呂市馬瀬惣島葛谷)

●第17回民有林治山木材使用工事コンクール(日本治山治水協会長賞):
石田　真吾(揖斐川町谷汲名礼)

●第17回民有林林道木材使用工事コンクール(日本林道協会長賞):
可茂農林事務所　林業課(林道　加茂東線(6工区))

表彰状を受ける中島氏

工事区間の完成写真

※林道「尾城山線」の概要

この林道は、加茂郡白川町を起点とし、加茂郡東白川村を通り中津川市加子母を終点とする森林基幹道です。全体計画延長33,100m、幅員4.0mで、平成8年度に着手し、平成27年度末の開設延長は、進捗率59.5%にあたる19,700mとなっています。

【(公社)岐阜県山林協会】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-273-7666 (公社)岐阜県山林協会まで

森林と人を活かす知恵 49

「虫の家」から見えてくる世界

岐阜県立森林文化アカデミー　准教授●津田　格

●ドイツで見た「虫の家」

9月に、本校と連携協定を結んでいるロッテンブルグ林業単科大学のサマーセミナーに参加するため、ドイツに行ってきました。約1週間のツアーの中でドイツでの社会と森林との関わりについて見てきました。環境教育施設を訪れた際に、建物の外壁に様々な巣箱が展示されていました(写真1)。それらは鳥だけでなく昆虫やコウモリなどの住処となるもので、大学構内にも木材や松ぼっくりを詰めた小屋がありました。以前ドイツを訪れた人から聞いたInsektenhotel(虫の家)の実物を初めて見たのです。ドイツでは、かなり普及しているようです。

写真1　ドイツで見かけた様々な巣箱

●虫の家づくりを通して

以前本誌で、ニホンミツバチが環境と暮らしの関わりを考えるきっかけとなるのではと書きました。たしかにニホンミツバチには人を引きつける魅力があります。しかし一方で、蜂蜜という甘い産物にとらわれすぎるきらいがあると感じていました。また、ここ数年でニホンミツバチが美濃地方で減少し、気軽に取り組むには少しハードルが上がっていました。

他に森林などの自然環境に人が目を向けるきっかけはないだろうか。そのようなことを考えているときに、前述の虫の家の話を聞いたのです。その情報を参考に、虫の家作りを本校のオープンカレッジ(生涯学習講座)で行いました。まずは小屋を建て、細い竹で作った虫の家を設置しました。竹筒の細い孔に営巣する昆虫には、狩り蜂やハナバチの仲間がいます。設置した竹を割ると、ハチの幼虫や幼虫の餌として集められたクモなどが観察できました(写真2)。何気なく見過ごして来た生き物の暮らしが、途端に生き生きとしたものになって目に飛び込んでくるようでした。参加者の方には自宅でも同様の試みを行ってもらうため、ドイツの例を参考に可愛い形の虫の家を作って持ち帰ってもらいました(写真3)。

写真2
竹筒の内部に詰め込まれたクモ類

講座で行った虫の家作りは、身近な自然について改めて目を見開かせてくれました。しかしかつては私たちのすぐ近く、例えば茅葺き屋根の中にも昆虫達が普通に暮らしていたはずです(写真4)。けれども家屋の構造や素材の変化により、それらの昆虫は近くから姿を消したのです。これはほんの一例に過ぎず、私たちの暮らし方や社会状況の変化に伴い、ひっそりといなくなったものは他にもいるはずです。虫の家作りは昆虫達に住処を提供するのみならず、私たちの暮らし方や自然環境との関わり方についても改めて考えさせてくれるのです。

ドイツでは自然保護法が制定され、多くの自然保護団体が活動しています。自然保護に関連する法的な規制が厳しい一方で、多くの人々が日常的に森林に足を運び、自然とのつきあい方を意識し、行政や産業界に働きかけています。林業の現場も例外ではなく、経済性のみならず生物多様性を高め維持していくような管理が求められています。身近なところから自然を見つめ直していくことは、今後の日本においても重要性を増していくことと思います。

写真4　「虫の家」となっていた茅葺き屋根
虫が利用している茅は
末端が白く詰まって見える

写真3　可愛らしい形の「虫の家」
(撮影：森田綾子)

●詳しい内容を知りたい方は　TEL (0575) 35-2525　森林文化アカデミー まで

シリーズ

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

9

県民みんなで豊かな自然環境を守る仕組みとして「清流の国ぎふ森林・環境税」が導入されて４年が経過し、計画最終年である５年目の事業が実施されています。今年度も、森林に関係する事業を中心に連載で紹介します。

ぎふの木育教材導入支援事業

岐阜県では、『ぎふ木育』の取組みの一環として、ぎふの木のおもちゃなどの玩具や、図画工作・技術の授業で使用する木製学習教材等の購入費用の一部を補助する『ぎふの木育教材導入支援事業』を実施しています。

ぎふの木のおもちゃ・教材キットの購入費の一部を補助します！
【問い合わせ先】岐阜県庁　恵みの森づくり推進課
電話　058-272-1111（内線3031）

■平成２８年度事業の概要

（１）対象事業者

市町村（一部事務組合を含む）、市町村の設置する保育園・幼稚園・小中学校・特別支援学校、学校法人、社会福祉法人、医療法人、子育て関連のＮＰＯ法人のほか、特に知事が認める団体

（２）対象製品

木のおもちゃ、木製品キット、木材サンプル等
※購入する木製品は原則として全て岐阜県産材（ぎふ証明材）

現在も申請を受け付けています。
活用をご検討される場合は、
問い合わせ先までご相談ください。

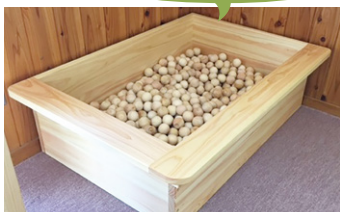
（３）補助金額

購入費用の1/2以内の額（県が認定するぎふ木育ひろば設置施設に導入する場合は10/10）
ただし、導入する1施設につき上限100,000円
※事業者が複数の施設に導入することも可能（この場合、１施設ごとに上記の金額が補助されます）

■平成28年度活用実績（各市町村での活用施設数）

岐阜市（５）　各務原市（３）　大垣市（４）　大野町（４）　輪之内町（２）　土岐市（２）　美濃加茂市（１）
東白川村（１）　下呂市（１）　飛騨市（１）など、19 市町村 38 施設で活用されています（H28 年 12 月 15 日現在）

ひのきのボールプール



【製造元：加子母森林組合】

【各務原市　川島東こども園】

導入したおもちゃで遊ぶ園児たち

【大垣市　むつみ保育園】

美濃加茂発
アベマキ木琴

演奏会の様子

【美濃加茂市立山之上保育園】

【当事業を活用された方々からこんな評価・声をいただきました！】

- 木の手触りや匂いを、長い時間楽しんでいる子がいた。
- キットを組み立てることに対し、こだわりを持って丁寧に扱う子や、一つの作業を高い集中力を持って行う子を発見できた。
- 木のぬくもりを感じることができ、かつ子どもたちが舐めても安全な木のおもちゃを利用できることに対して保護者の方に安心感を持ってもらえ、また「木育」を積極的に導入している当施設の姿勢を評価してもらえた。

【恵みの森づくり推進課　二村 俊太郎】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線（3031）恵みの森づくり推進課まで

ぎふ森林（もり）づくりサポートセンター

ぎふ森林（もり）づくりサポートセンター（サポセン）では、岐阜の森林づくり、里山保全整備、ぎふ木育などの活動を支援し、イベント情報発信や交流のきっかけづくりを行っています！

また、「里山づくり講座」や森林整備作業時の事故を防ぐための「安全管理講座」の開催の他、「ぎふ木育」「里山づくり」における人材や団体の紹介も無料でいたします。取材希望も随時受付中！お気軽にご相談ください！

活動紹介

「ぎふ森林づくりサポートセンター」ブログにて、森林づくり活動団体の紹介や活動報告、イベント報告を行っています。今後の活動の参考になるヒントがいっぱい！！

活動支援

森林づくり用具（ヘルメット，のこぎりなど）、ぎふの木のおもちゃ、学習パネル等を無償貸出、木育プログラムの紹介をします。

団体活動・イベント紹介

「参加者を募集したい」「活動を紹介したい」などのご希望があれば、お知らせください。

また、森林づくり活動団体が活用できそうな助成団体募集情報も活動を支えてくれます。

活動の参考になる情報

県内の森や木に関する活動団体の紹介や、指導者の紹介、企業との協働による森林づくりを紹介しています。

身近な森林のはなし

森林の役割や森林の仕事、ぎふ木育について紹介しています。

ぎふ森林づくりサポートセンターHP

ブログにて活動紹介しています

- 森林づくり・木育活動に取り組む団体を紹介します！……「団体活動紹介」
- 森や自然の中でのびのびと子育て！……「森のようちえん・プレーパーク」
- 木育を子どもたちの教育に！……「木育ひろば」「木育教室」「緑と水の子ども会議」
- 企業と地域住民との交流を深める森林づくり・木育活動！……「企業と協働による森林づくり」
- グループや企業がそれぞれの特技を活かしてつながる・創りだす！……「恵みの森づくりコンソーシアム」

など、岐阜県の頑張る方々を応援します！

サポセンホームページ上部の ブログ ボタンをクリックするとご覧になれます。

今後の活動のヒントがたくさん詰まっています！ぜひ参考にしてみてください！！

お気軽にご連絡ください！

問合せ先

住所：岐阜市薮田南2-1-1　岐阜県庁　恵みの森づくり推進課内

電話：058-272-8472（直通）　FAX：058-278-2702　E-mail：c11513@pref.gifu.lg.jp

板津さん

『東濃地域の林業を支える若い力』（その3）

㈱山田林業

板津 靖彦さん

東濃地域の現場の第1線で活躍している若手森林技術者を紹介します。

今回は、㈱山田林業の板津靖彦（いたつ　やすひこ）さん（25歳）です。

板津さんは、小牧市の出身で、関東地方の大学で林業を学び、在学中に㈱山田林業にてインターンシップを体験し、平成26年4月から㈱山田林業に就職されました。

また、今年度の施業プランナー育成研修に参加し、積極的に森林管理技術を学んでいます。

㈱山田林業の概要を教えてください

㈱山田林業は愛知県春日井市境の多治見市廿原（つづはら）町に本社を構え、現在15名の森林技術者を雇用しています。主力事業は岐阜県内外の開発事業地等の支障木伐採と、会社が所有する中間処理施設での年間2000㎥程度の原木からチップの製造、県内バイオマス発電施設へのチップ販売です。

そして今年森林整備事業のウエイトを高めようとプロセッサーを購入し、森林経営計画の策定を進めています。

また、東濃地域の林業関係者からなる「陶都林材クラブ」の一員として、各市農業祭への参加や、地域からの要請により林業技術指導を行っています。

板津さんが㈱山田林業を選んだ理由を教えてください

○森林技術者として体を動かす仕事に就きたかったこと。

○㈱山田林業が、業以外にも森林・林業のPR活動（各種イベントへの参加等）に積極的に取り組んでいること。

○実家から通いながら現場での林業関係の仕事が出来ること。

○インターンシップを体験した際に職場の先輩、社長の人柄にほれ込んだこと。

以上の理由により㈱山田林業に就職することに決めました。

実際に仕事に携わっての感想を教えてください

学生時代から草刈りのアルバイトで鍛えていたので、仕事してみて体力的に問題は有りませんでした。現在は、伐採の技術を重点的に高めたいと考えており、その一環として先日の森林技術競技会には自ら立候補して参加しました。競技会に参加したことにより、日頃の現場作業でもチェーンソーを安全に使うことを課題として意識するようになりました。

これからの目標・希望を教えてください

○先輩方のアシスタントとして、どんな仕事も修行のつもりで一生懸命行い、基本を身につけること。

○一つずつ出来ることを増やし、重機の運転、伐採から搬出、採材まで一通りの仕事が安全に出来る一人前の森林技術者になること。

○私有林の管理、運営を任せてもらえる施業プランナーとして仕事が出来ること。

○会社に利益をもたらす事が出来る従業員になること。

○仕事を通して地域に貢献できること。

を目標として日々頑張っていきます。

公園で広葉樹伐採補助

お話を伺って

板津さんは普段とても物静かな人ですが、研修等の受講指導を通して森林整備に対する内なる熱い情熱を感じています。

施業プランナー育成研修では、大学で学んだ事を思い出し理解しながら積極的に学ばれており、現在会社周辺の森林経営計画を策定する準備をされています。研修終了後は、㈱山田林業が計画実施する東濃地域の森林整備推進の牽引者の一人として、地域林業の発展のため活躍されることを期待します。

【東濃農林事務所　林業普及指導員 藤井 敦】

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0572-23-1111
東濃農林事務所まで

木の香る
ぎふの施設
49

木造化

おひさまの微笑み

岐阜市茜部寺屋敷2丁目40番地

施設全景

施設概要

事業年度	平成27年度
事業主体	㈱ハートコンサルタント
構造・延床面積	木造２階建て 延床面積950.88㎡
施設用途	有料老人ホーム・障がい者グループホーム
木材使用量 使用樹種	県産材使用量：224.66㎥ 主な使用樹種：スギ、ヒノキ
全体事業費	231,625千円
助 成 額	83,893千円
設 計 者	㈱ダイナ建築設計
施工業者	㈱新東建設
工　　期	平成27年8月～平成28年3月

施設で使用している照明は、内閣総理大臣賞を授与された建具職人手作りのものです。

畳敷きの廊下では、お年寄りと企業内保育所の子ども達の交流を行っています。

施設の経緯

岐阜市茜部の「おひさまの微笑み」は有料老人ホームと障がい者グループホームを併設している施設です。

利用者の方に「感動と満足」を感じて頂きたいという代表兼施設管理者の思い入れが実り、平成２８年３月に施設が完成しました。

構造材、内装材には全て岐阜県産材を使用しており、木のぬくもりや香りがあふれる施設となっています。

食堂

ここに注目!!

- 構造材だけでなく、お風呂・手すり・大テーブル・腰掛イス等、手に触れる建具は、全て岐阜県産材で仕上げています。
- 畳敷きの廊下、部屋の土壁等、旅館のような住宅型老人ホームとなっています。
- 平成２８年１０月８日に「ぎふの木づかい施設」に認定されました。

利用者の様子

- 職員と建物内外を散歩されたり、吹き抜けの食堂でお友達や子ども達とゆったりお話しをされたりと、木材の温かな空間の中でゆっくり安心して過ごされています。

■問い合わせ先（9：00～18：00）
（株）ハートコンサルタント
おひさまの微笑み
連絡先　TEL 058-276-1366

「ぎふの木づかい施設」を認定しました。

県では、平成27年10月に開催した「第39回全国育樹祭」を契機に、一昨年度から岐阜県産材を使用し、先進的なデザインを取り入れた施設や木の良さを感じていただくことができる施設を「ぎふの木づかい施設」として認定し、みなさんに紹介する制度をスタートさせました。

今年度は10月8日の「木の日」に、新たに27施設を認定しました。昨年度に認定した27施設と合わせて「ぎふの木づかい施設」は合計54施設となりました。認定した施設には認定証を交付するとともに、県のホームページで紹介しています。（「ぎふの木づかい施設」で検索）

次年度以降も、10月8日の「木の日」に認定を行いますので、認定要件を満たす施設の皆さまの申請をお待ちしています。

○対象施設

福祉施設、教育施設、商業施設等（住居専用以外の施設）

○認定要件

次のいずれかを満たす施設

1「ぎふ証明材」を使用し、木材の使用方法について意匠性・新規性に富んだPR効果の高い施設

2 使用した木材の70％以上に、「ぎふ証明材」が使用してある施設

海津市立城南中学校

■ 平成28年度新規認定施設一覧（計27施設）

認定施設名	業　種	住　所
岐阜市立長良西小学校	小学校	岐阜市千代田町2丁目1番地
おひさまの微笑み	高齢者福祉	岐阜市茜部寺屋敷2丁目40番地
ふぁみりぃポップ	障がい者福祉	岐阜市下西郷2丁目252番地
有料老人ホーム・デイサービス　ここな	高齢者福祉	岐阜市切通2丁目7番24号
学校法人長屋学園　認定こども園だいち	認定こども園	各務原市各務西町5丁目189番地
山県市社会福祉協議会 ショートステイあさひ	高齢者福祉	山県市高木933
海津市立城南中学校　南舎	中学校	海津市南濃町羽沢1050
グループホーム　りんどう	高齢者福祉	安八郡神戸町北一色555番地1
大野町立幼児療育センター　なないろ	児童発達支援	揖斐郡大野町大字大野162－1
関市立関商工高等学校　第２体育館	高等学校	関市桐ヶ丘1丁目1番地
関市立西部保育園	保育園	関市小屋名621－2
郡上市立白鳥中学校	中学校	郡上市白鳥町為真766番地2
郡上市立大和中学校	中学校	郡上市大和町剣100番地
郡上市立郡上東中学校	中学校	郡上市和良町法師丸196番地1
きらら美濃加茂	障がい者福祉	美濃加茂市西町7丁目182番地1
㈱弘栄工務店 Renovation展示場	展示場	可児市下恵土6014－1
神土高齢者交流サロン	高齢者福祉	加茂郡東白川村神土587－5
多治見市星ケ台保育園	保育園	多治見市星ケ台3丁目7番地の3
陶宅老所　いちにのさん	高齢者福祉	瑞浪市陶町猿爪14－1
中津川市清和寮	高齢者福祉	中津川市中津川3367番地の1
くり・くりの里中津川　和食処なかつ川	障がい者福祉	中津川市苗木48－522
ぎふ村高齢者健康増進施設	高齢者福祉	中津川市茄子川中畑112－163
恵那たんぽぽ　大井ホーム	障がい者福祉	恵那市大井町2716－72
下呂市立かなやまこども園	認定こども園	下呂市金山町金山2301－3
サービス付き高齢者向け住宅　清徳会宙	高齢者福祉	高山市神田町1丁目28番地1
新穂高センター	観光施設	高山市奥飛騨温泉郷神坂710－9
高山市国民健康保険　清見診療所	医療施設	高山市清見町三日町417－1

【県産材流通課　山田 純司】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8487 県産材流通課まで

山のおじゃまむし

ー 叔父さんの遺書、ミヤマカラスアゲハ ー【第306回】

自然学総合研究所　野平 照雄 ● *Teruo Nohira*

私の叔父であるOさん（以下、叔父さん）は高山市の奥地にある集落で一人暮らしをしている。ここを離れると400年前からある仏壇の守りができなくなるので、先祖に申し訳ないからだという。昨年の5月、その叔父さんに久しぶりに会った。いろいろ話しているうちに健康の話になった。その時、「照雄、酒ばっかり飲んどると駄目やぞ。わりも（お前）も70を過ぎたんやで、体を大事にせんと早う死んでまうぞ」と飛騨弁丸出しで話をされた。叔父さんは90歳。とてもそんな歳には見えない。昼は農作業で夜は好きな俳句や短歌の勉強。毎日が早寝早起きで、食事は質素で腹八分。6年前から好きな酒も止めたという。とにかく健康を第一に考えるすごい人であった。その叔父さんがさらに言われた。「わしの自慢は医者にかかったことがないこと。そのお陰で体は丈夫やし、歯は全部自分の歯。それに目は今でも1.5で、遠くも近くも見えるんやぞ。」私は唖然とし、思わず口に出た。「それ本当!?」叔父さんはすごい人だ、と改めて思った。そして、私は「叔父さんは100歳まで生きられるね」と冗談のつもりで話した。「わしもそのつもりだ。しかしなあー 90も過ぎると、いつポックリいくかわからんので、今のうちに遺書を書いておこうと思っている」と言われた。私は「まだ、早いですよ。医者にかかったことのない体ですから」と笑いながら答えた。

× × × ×

それから6ヶ月後、その叔父さんが亡くなった。それも病気でなく、焼死だという。驚いた。と言うより、信じられなかった。火元は叔父さんの使っていた電気毛布。焼けたのはその部屋だけ。しかし、叔父さんは逃げ出せなかった。「あと5分あれば」と遺族。その心中を察すると胸が痛んだ。100歳まで生きると言っていた叔父さん。それが悲惨な結末で人生の幕を閉じてしまった。無念だっただろうと目頭が熱くなった。そのうちに叔父さんとの思い出が次々と脳裏をかすめた。特に忘れられないのがカワチョウチョウのこと。記憶は定かでないが、小学6年生の時だったと思う。夏休みに叔父さんの家で何日も過ごしたことがある。その時、叔父さんの山仕事についていったことがある。途中、水のわき出ているところがあった。そこに青光りのするきれいな蝶が何匹も集まっていた。叔父さんは「あれはカワチョウチョウで、暑いと水を飲みにくるんやぞ」と言われた。このカワチョウチョウは川や谷の水辺に集団で水を吸っていたし、家の前の花にも何匹も飛来していた。その後、この蝶はミヤマカラスアゲハであることを知った。今では少なくなったが、当時は集落のどこでも飛び回っていた。もう60年前のことであるが、当時の光景が目に浮かんできた。

▲吸水しているミヤマカラスアゲハ

× × × ×

やはり叔父さんは遺書を残されていた。葬儀の時、遺書のコピーが会葬者に渡された。その遺書を読み胸が熱くなってきた。それには次のようなことが記してあった。

> この手紙をお読みになられている時は、朝早く小鳥のさえずりに起こされて外に出ると生暖かい朝霧が山川、田畑を覆い思わず深呼吸をする早春の季節でしょうか。…… 90歳を目前にして頭、体の元気なうちに私のような者を相手に気長にお付き合い頂いた皆様方に、感謝を込めてお礼申し上げます。今思えば激動の昭和、飽食と混迷の平成を生き抜いた「頑固オヤジの独り言」として読んで頂ければ幸いに存じます。「贅沢は敵だ」に始まり今思えば無謀な太平洋戦争に突き進み、戦中、戦後の悲惨な日本と復興から繁栄そして憂うほどの迷える日本。ある著名な人が「物余りは人の心を滅ぼし、ひいては國を滅ぼす」という言葉を思いにふける日々です。「国を愛し、郷土を愛し、人を愛し、物を大切にする」人として最も大切な日本人の心を忘れようとしています。まさに国が滅びる直前だと思わざるをえません。物不足の時代を生きた私のわがまま、勝手をお許し下さい。
>
> この世を去る者が現世に生きる皆様方にご厚情を賜ることは大変申し訳なく思います。よって私の葬儀は質素に、近親者のみの家族葬とし且つ後々の年忌についても何一つ文句も言わずに私を支えてくれた亡き女房と一緒に質素に執り行うことを節にお願い申し上げます。皆様方の……これを「最後の手紙」といたします。

となっていた。

× × × ×

読み終わり叔父さんの人間性が痛いほど伝わってきた。それにしても、病院とは無縁だった叔父さんの悲惨な最後。生前口にしていた「いつポックリいくかわからんで」が現実となってしまった。世は無情だと思った。祭壇に飾られた山仕事をしている叔父さんの写真。その叔父さんが「照雄、山のおじゃまむしはいつまでも書けよ。わしは天国で読むでな」と言っているようであった。叔父さんは、山のおじゃまむしの愛読者で「毎回楽しみだ」と言われていた。私は叔父さんのためにも「これからも書きますから、天国で読んでください」と祭壇に拝礼した。帰路、叔父さんの住んでいた家に寄った。このあたりをカワチョウチョウがたくさん飛んでいたのだなーと当時を思い出し、叔父さんに最後の別れをした。さようなら、叔父さん。

わがまちの森林・環境行政

郡上市の山づくり

郡上市の森林づくり施策を紹介します。

郡上市
マスコットキャラクター
郡上良良ちゃん

森林の概要

岐阜県のほぼ中央に位置する郡上市は、白山山系の銚子ケ峰、大日ケ岳、鷲ケ岳等の山々が連なる中山間地域で長良川の源流部にあたります。一部は、白山国立公園、奥長良県立自然公園に指定されており、緑豊かな優れた自然景観を有しています。

森林は、市総面積の約9割にあたる92千haを占めており、県内では高山市に次いで2番目に多い状況です。また、森林面積のうち民有林が97％（約9万ha）を占め、その内人工林が5万ha（人工林率56％）で、人工林面積は県内で一番です。樹種はスギとヒノキが半々ですが、南部ではヒノキ、北部ではスギの占める割合が高い状況です。

郡上山づくり構想

これらの森林が持つ水源涵養等の多面的機能を維持・発揮させながら、豊富な森林資源を活かした地域の活性化を目指し、長期的な視点に立った計画的な森林づくりを進めるため、平成22年度に「郡上山づくり構想」を策定しました。この構想では、「山美しく、水清く、幸巡るまち」として郡上を創り、後世に伝えることを基本理念とし、森林整備、木材利用、人材育成の3つの観点から施策の方向性と推進内容を示しています。

山づくり施策の推進

郡上山づくり構想に基づき、実施している施策のうち、主な事業を紹介します。

1 森林整備事業

市内の人工林の約8割が3～12齢級の間伐対象林分のため、積極的に間伐を推進する必要があります。そこで、国県の間伐事業の補助（補助率68％）を嵩上げし、80～90％の補助としています。それにより市内全体で約1，300ha（H27）の間伐を実施しています。

2 小規模森林整備事業

さらに、国県の補助対象とならない小規模（0．05～3ha）な森林整備に対して6割の補助をしています。

3 郡上市産材住宅建設等支援事業

市内産材の利用促進のため、市内産材を構造材の8割以上使用した住宅や店舗に対して補助を実施しています。市内への新規定住で市内の工務店等に施工してもらった場合には最大補助額は1棟あたり50万円です。

4 森林・林業人材育成事業

森林技術者の育成に必要な研修受講費用の1／2を支援しています。

皆伐施業ガイドライン

順次主伐期を迎え、今後増してくる皆伐に対して、森林環境を守りながら、木材を持続的に利用していくために平成25年度に「郡上市皆伐施業ガイドライン」を策定しました。森林所有者、伐採事業者の方に、皆伐を控える森林（急傾斜地等災害の危険性のある森林、標高1400m以上、積雪深2.5m以上で造林に適さない森林等）を示すとともに、次のような伐採時の注意事項を呼びかけています。①大面積の皆伐は避ける。②人工林の伐採地は植栽する。③5ha以上の皆伐は、伐採区域や伐採時期を分散させる。④保護樹帯・保残木を配置する。⑤天然更新地は一定面積ごとに有用な母樹を残す。などです。

継続した普及啓発により、当ガイドラインも年々理解されつつあり、伐採跡地の再造林へとつながる箇所が増えています。

このような状況の中、平成27年9月に、A材を利用する大型製材工場が市内で本格稼働し、新たな木材需要が生まれました。

伐期を迎えている森林を伐採し、利用するために、施業の集約化、森林経営計画の策定促進、路網整備、森林技術者の確保・育成等に取り組むと共に、伐採後の確実な更新のために、獣害対策や低コスト造林の実証事業に取り組んでいます。

また、高齢化や人口減少が進み、地球温暖化に伴う気候変動等により災害リスクが高まっている中で、森林の多面的機能の維持・発揮と安定的な木材生産及び更新が課題となっているため、平成28年度に、市内の森林施業プランナー等による「郡上市森林ゾーニング検討会議」を設置して、木材生産適地など森林の将来像を見据えたゾーニングとその区分毎の森林整備方針を検討しています。

世界農業遺産に「清流長良川の鮎」が認定

最後になりましたが、清流長良川に関する人の生活、食文化、水環境、漁業資源が密接に関わる里川システムである「清流長良川の鮎」が平成27年12月に世界農業遺産に認定されました。

市としては、これを契機に森林の持つ多面的機能を市民に普及啓発するとともに、清流長良川及び豊かな森林を次世代へ引き継ぐため、森林づくりを益々進めていきます。

【郡上市役所　林務課】

▲適正に管理された森林（市有林）

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-67-2121
郡上市役所林務課まで

岐阜県のきのこは私が守る
～孤軍奮闘！きのこの普及指導～

■森林文化アカデミー　森林技術開発・支援センター
技術支援係　田中 郁男

岐阜県のきのこの現状

岐阜県のきのこの生産状況はご存知でしょうか。

平成27年次の調査によると、しいたけが約1，800tで、きのこ全体では約3，100t生産されています。

平成25年の岐阜県のきのこの「林業産出額」（※1）は、28．3億円で、林業産出額（81．8億円）の約35％を占めています。

※1「林業産出額」は、県内における木材、栽培きのこ類、薪炭等林業生産活動による生産額の合計。

岐阜県の普及指導体制について

岐阜県は、平成18年度から林業普及指導員を専任化し、岐阜県立森林文化アカデミー（森林技術開発・支援センター）ほか10の現地機関（農林事務所）に28名を配置しています。

しかしながら、きのこの普及指導については、高い専門性が要求されることから、岐阜県下全域を、一人の林業普及指導員が対応しています。

私が約2年間この普及指導に従事していますが、その間に体験した事例を紹介します。

事例1　害菌の特定

ある日、私の携帯電話に「赤パンかび（※2）が発生した～。助けてくれ～」と連絡がありました。

害菌の発生状況確認中

※2「赤パンかび」は、高温・多湿を好む菌で、繁殖力が強く施設全体に蔓延する危険な菌。

早速、施設を訪問し、発生している菌床を確認したところ、赤パンかびではなく、バクテリアによるものと思われました。

赤パンかびでなく、ホッとしましたが、施設内が汚染されていることは間違いありません。

バクテリアによる汚染は、施設内の水廻りに原因があることが多く、生産者から状況を聞いた結果、「噴霧器の水受け」が原因と考えられたため、掃除を徹底するよう指導し、それ以降、バクテリアによる汚染はなくなりました。

事例2　60万円経費削減

「施設内の雑菌がひどい。見に来てくれ。」と連絡があり、施設を訪問しました。

菌床に害菌の発生が確認されました。

この生産者は、「殺菌釜の調子が良くない。修理の見積りをしたら、60万円かかるらしい。」と原因を機械の不調のせいにしようとしていました。

生産者は、往々にして、自分の技術を信じているので、害菌発生の原因を、機械の不調にする場合があります。

殺菌釜の状況確認中

私が、施設内を見たところ、菌床や発生本数等の状況から、栽培瓶を殺菌釜で殺菌した後での、放冷時に外気と触れる際の「吸い込み」（※3）による原因を疑いました。

※3「吸い込み」高温で殺菌後、殺菌釜から放出した際に、温度差で、栽培瓶内に外気を吸い込む現象。この際に害菌も一緒に吸い込みことがある。

そのため、「データロガー」という温度を測定し、測定値を蓄積できる機械により、殺菌釜内における殺菌状況を確認することとしました。

この生産者は高圧殺菌釜を使用していますが、100℃が、4時間近く維持されており、十分殺菌されている結果となりました。得られたデータはグラフ化して、生産者に目で見える形で示し、納得してもらいました。

さらに、寒天培地（※4）を作製し、施設内の落下菌調査を実施し、施設内がとりわけ汚染されているという状況でないことも理解してもらいました。

※4「寒天培地」シャーレに寒天を溶かし固めたもの。施設内の害菌調査時等に利用

このような結果をもとに、疑っていた「吸い込み」による対策として、殺菌後の蒸らし時間を長くするよう指導しました。

その結果、害菌の発生は少なくなりました。

約60万円の修理費を防ぎ、経営の手助けにもなりました。

事例3　勘違いを正す

この生産者は、「酵素を添加すると生産量が10％程度上がる可能性がある。」という研究に取り組んでいました。

施設を訪問し、状況を聞いていると、「この頃、菌廻りが良くないんです。その影響で、生産量が10％程度落ちているんです。酵素を添加すると生産量が10％上がると聞いたので…」とのこと。

生産量が落ちている原因を特定する前に、安易に生産量を回復させようとしていることが分かりました。

そのため、原因を追究する必要性を説明し、原因を探ることとしました。

菌廻りが良くない原因は、培地作製時に、おが粉や必要な栄養体（米ぬか、大豆の皮など）に水分を加え、攪拌するのですが、その際に、水分量が一定でなく、水分過多の場合が考えられたので、含水率の把握方法について確認しました。

含水率の把握については、同じ従業員が実施しているが、なかなか感覚がつかめない（多くの生産者は、手で握った感覚で含水率を把握している）状況でしたので、機器で測定する方法を併用して、感覚を覚えるよう指導しました。

今のところ、まだこの従業員の感覚は甘いようですが、徐々に改善はしています。

原因究明のほか、生産者の生産技術を高めるための意識改革もできました。

攪拌機内のおが粉の状況調査中

事例4　種菌業者と連携

「4月に接種した菌床が、褐変化（きのこの菌が蔓延し、菌床が褐色に変化すること）しないんです。」との連絡を受け、施設を訪問しました。

4月からの培養状況を聞きましたが、高温に見舞われたなどといったこともなく、褐変化しない原因が今ひとつよく分からなかったので、「種菌会社には相談していますか。」と聞いたところ、「種菌会社で、試験栽培してもらっているが、まだ結果が分からない。」とのことでしたので、種菌会社の担当者に連絡し、状況を確認し、この生産者に原因等を伝えました。

種菌会社も巡回指導員を配置し、生産者指導も行っていますが、近年、指導範囲が広がっており密接な指導ができていないようですので、巡回指導員と相談し、今後は、連携して生産者指導を実施することとしました。

施設内での指導中

新規きのこ生産者

原木・菌床きのこ生産に新規に取り組みたいという方が、生産開始時の融資を検討される場合があります。

個人でも、インターネット等で情報が簡単に入手できることから、マニュアルどおりに行えば、きのこが簡単に生産できると思われる方も多い状況です。

このような場合には、きのこが生き物であり、その栽培は難しくマニュアルどおりにできないことや、施設規模の妥当性や、今後の生産・販売計画についても指導しています。

終わりに

きのこは、植菌してから3か月で発生するものもあり、木材を生産する林業と比べると、農業のように結果が早く分かります。

そのきのこの生産等の指導は、かなりのプレッシャーですが、上手くいった場合は、嬉しさも格別です。

日々、きのこの生産をされている生産者の経験にかなうはずもありませんが、違う視点で見つめることはできます。

何か不具合が生じた際は、少なからず力になれると思いますので、遠慮せずに連絡してください。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-35-2535
森林技術開発・支援センター

ツリーシェルターの耐雪性（Ⅱ）
―緩傾斜地（傾斜15°未満）での事例―

森林研究所●岡本 卓也

はじめに

ニホンジカなどによる植栽木の枝葉の採食は、植栽木の成長や形状に大きな影響を及ぼします（図1）。その対策として植栽木に薬剤を塗布する方法や、植栽木を保護資材（ツリーシェルター）で覆う方法などがあります。

図1.採食され矮小（盆栽）化したスギ

ツリーシェルターは、物理的に植栽木を保護し、高い採食防止効果があります。しかし欠点として、積雪により鉛直下方向に押しつぶされて変形し採食防止効果が発揮できなくなったり、植栽木と共に倒伏し植栽木に損傷を与えたりすることがあります（図2）。そのため、ツリーシェルターにより採食対策を実施するには、積雪量などの条件を考慮に入れ、使用する資材を慎重に選択する必要があります。

図2.倒伏したツリーシェルターと苗木（矢印）

前回（本誌７４０号）は、傾斜30°のスギ林におけるツリーシェルターの耐雪性（積雪で破損したり倒れたりしないかどうか）を報告しました。

今回は、緩傾斜地に設置したツリーシェルターの耐雪性についての試験結果を報告します。

試験条件

試験に用いたのは、前回の試験で耐雪性の高かった市販の六角柱型ツリーシェルターです（図3）。このツリーシェルターは、支柱の強度が高いため曲がりにくく、ツリーシェルター本体に自立性があり、かつ表面が平滑という特徴があります。

図3.試験資材

樹下植栽を想定し、緩傾斜地の50年生スギ林内に高さ１４０㎝の六角柱型ツリーシェルター20本を設置し、融雪後の破損や倒伏の状況を目視調査により確認しました。林内の積雪の推移については、積雪深計により把握しました。

融雪後の資材状況

積雪期間中の最深積雪深は１１０㎝で、資材高である１４０㎝を越えることは一度もありませんでした。

目視調査の結果、明らかな破損や、積雪により傾いた形跡は、すべてのツリーシェルターで確認されませんでした。この結果から、１１０㎝程度の積雪のある緩傾斜地の森林では、積雪期間を通してツリーシェルターが使用できるものと考えられました。

おわりに

前回の結果とあわせ、樹下植栽を想定したスギ林において、緩傾斜地では１１０㎝程度、傾斜30°では１５０㎝程度の積雪条件であれば、六角柱型ツリーシェルターが年間を通して使用できる可能性があることがわかりました。

今後は調査事例を増やし、新植地を想定した上層木がない環境や、複数年にわたる破損状況など、様々な条件下での調査を行い、ツリーシェルターが年間を通して使用できる条件について明らかにしたいと考えています。

図4.融雪後の資材状況

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-2585
森林研究所まで

国有林の現場から 4

国有林見学ツアーの開催と広報活動の強化

岐阜森林管理署　主任地域林政調整官　大島 愛彦

岐阜森林管理署では、10月22日（土）、NPO法人森のなりわい研究所及び旅行業者の共催で、山の日制定記念「御岳の自然と江戸時代のヒノキを見に行こう」と題して、国有林見学ツアーを開催しました。

これは都市住民に対して森林とのふれあいの場を提供する「森林ふれあい推進事業」（林野庁事業）を活用して、昨年度から実施しているものです。

ツアーの概要

当日は天気に恵まれ、下呂市内の国有林である、赤沼田天保林（あかんたてんぽりん）（国内でも例の少ない江戸時代に植えられたヒノキ人工林）と、御岳自然休養林（御岳山麓の自然林）を案内しながら森林・林業の普及啓発、火山の説明などを行いました。

ツアー開催のための工夫

参加者が集まらなかった昨年度の反省を踏まえ、今年度は次の点を工夫しました。

①イベント企画に森林・林業をあまり知らない一般の人の感覚を取り入れる

②広報活動を強化する

一般の人の感覚を大切に

イベント企画に役人の発想ではなく一般の人の感覚を取り入れようと、署内の非常勤の女性職員との自由な意見交換を行い、タイトルやチラシなど一般の人にも分かりやすい内容に修正しました。

広報活動の強化

テレビ、ラジオ、新聞、市広報、生活情報誌、チラシ配布など、あらゆる媒体に働きかけました。特にチラシには、森林の役割や大切さ、森林管理署の説明などを記載し、単なる参加者募集ではなく、森林・林業を広報するための1つの手段として展開しました。

チラシは下呂市の協力により、市内の様々な施設にポスターとして掲示いただくとともに道の駅に置いてもらいました。結果として申し込みにつながらなくても広報の効果はあったと自負しています。

申し込みは定員を超過するほど好評で、イベントを何で知ったかの問いには、ホームページが一番多く、続いて新聞、ラジオ、テレビの順でした。商工会や観光協会のホームページにチラシを掲載してもらった効果もあるでしょうが、ホームページは重要な広報媒体であることがわかりました。また、私が出演した下呂市のケーブルテレビを見たりエフエム岐阜を聴いたという人が多く、マスメディアの影響力の大きさに驚かされました。

イベントの結果と考察

参加者アンケートで9割以上の人が満足、今後も参加したいと高い評価をいただき、イベントは大成功でした。

こうしたイベントは近年、国でも県でも重視されませんが、森林・林業、国有林、林野庁及び森林管理署が、国民の理解を得るために重要な業務です。せっかくイベントを開催するのですから、プラスアルファの広報を行うことも大切です。

今後の課題として、都市住民への広報をさらに強化すること。森林とのふれあいだけでなく、林業（特に伐採・搬出）を国民に紹介し、日本の木を使うことは森林を育てる。国産材の利用を促進するイベントが必要だと感じています。

▲森林・林業の広報活動強化　エフエム岐阜にて

▲国有林見学ツアー　現地案内の様子

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 050-3160-6090
岐阜森林管理署まで

治山・林道研究課題

林道下呂～萩原線における崖錐帯区間の設計検討について

下呂農林事務所林業課　高橋　浩

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。昨年2月に行われた発表会（本誌752号16～17ページ）で発表された研究課題を紹介します。

はじめに

林道を設計する場合には、崖錐（がいすい）や地すべり地形地、落石危険地及び崩壊地などの箇所はできるだけ避けることとし、やむを得ず通過する場合は、その対策を十分に検討する、とされています。

今回、下呂市の林道下呂～萩原線において、通過が困難な崖錐帯を通るルートを選定せざるを得なくなり、切土法面対策や路側構造物などを検討し、施工しましたので報告します。

概要

この林道は、全幅員5.0m、全体計画延長約40kmの森林基幹道です。周辺の地層は濃飛流紋岩類となっており、林道とほぼ並行して「阿寺断層」があります。

今回の計画区間は断層の影響を直接受ける地質・地形で、緩斜面には1～2mの転石層があり、急斜面に露出する岩盤はひび割れが多く、周辺や林道通過点には崩壊地が存在しています。

再検討を要した区間は2箇所あります。両区間とも古い崩壊地の跡があり、地山勾配が急峻で転石が多く、土羽のみの盛土や長大な切取りも施工上困難な地形なため、当初設計では補強土壁工による路側構造物を中心に計画していました。

当該箇所の工事に着手したところ、地山内部が脆弱であることが判明しました。詳細な地質調査の結果、巨礫崖錐層や崖錐堆積物が当初の想定より深いことから、当初設計を見直すこととしました。

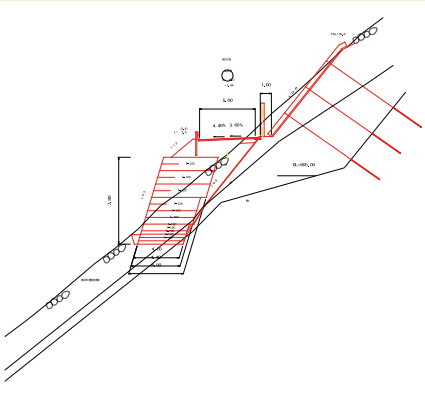
設計の再検討

①A区間

崖錐帯は転石等が堆積した状態であり、ボーリング調査だけでは設計条件の特定は難しく、再設計に必要な地盤定数は、現場での平板載荷試験により得られた極限支持力やボーリング坑内から乱さない状態でサンプルを採取して三軸圧縮試験を行った結果から推定しました。

再設計の結果、巨礫崖錐層の約10mの区間では、路側構造物として、通常の盛土材料では全体の円弧すべりに対する安全率1.2を下回るため、補強土壁内の盛土材料として、土石に比べ軽い、ガラスを熱により発砲させた軽量盛土材を使用することで、安定性を確保しました。

切土法面については、巨礫崖錐層を1：0.8の勾配で掘削した場合の安全率を求めた結果、計画安全率1.2を下回り、必要な抑止力を満たすため、グランドアンカー工を施工しました。



②B区間

B区間では、横断方向に2箇所でボーリング調査を行った結果、地盤のN値は7程度で支持力としては低い値が予想されました。このため、線形変更を含め施工可能な工法を比較し、崖錐堆積物の区間約16mに軽量な発泡スチロールを路体に用いるEPS工法を選定しました。

再設計の結果、EPS工法で地盤反力を低くおさえることが可能となり、支持力が不足すると思われる崖錐帯でも安定を保つと判断しました。EPS工法は、ブロック状の発砲スチロールを敷き並べ、発砲スチロールが紫外線などで劣化しないよう壁面材で保護する構造となっています。

法面の対策については、計画していた待避所を他の箇所へ移動したことにより切り取り量が削減され、1：1.0程度の勾配となりました。また、法面の小崩壊により新たな切り取りが発生する可能性が少ないことから、一般的な吹付枠工としました。

発泡スチロールブロックの敷設

壁面パネルの取り付け

延長約100mの区間ですが、5年の歳月を費やし、崖錐帯に林道を開設することができました。この報告が、今後、崖錐帯に直面した現場での設計施工の参考になればと思います。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0576-52-3111内線（217）
下呂農林事務所まで

平成28年度
第55回 治山研究会中部支部技術（設計・積算）検討会に参加しました。

平成28年10月24、25日に、静岡県において第55回治山研究会中部支部技術（設計・積算）検討会が開催されました。

治山研究会中部支部は、中部8県と中部森林管理局から構成され、毎年、現地検討会と技術（設計・積算）検討会を開催しています。現地検討会については本誌12月号で報告されていますが、今回は技術検討会について報告します。

技術検討会では、「治山技術の発展向上のための取組課題」と「設計・積算歩掛調査等の課題」を持ちより、情報交換や解決に向けた討議を行っています。1日目は、静岡県庁舎にて検討会議を行いました。今年度は、治山事業に係る調査歩掛の大幅改定、治山施設長寿命化計画に関するガイドラインの発刊、山地災害危険地区調査要領の改訂など、ここ数年でも例を見ないほど重要な課題が多くあったこともあり、例年以上に活発な意見交換がなされました。2日目は、静岡市内にある復旧治山事業現場の視察を行いました。平成24年6月の豪雨により山腹斜面が崩壊し、下流の茶畑と市道まで土砂が流出した箇所で、対策工種は、谷止工（新設、既設嵩上）、土留工（鋼製枠、かご枠、コンクリート）、水路工、モルタル吹付工、木製構造物工（柵工、筋工、伏工）、仮設工（モノレール、ケーブルクレーン）と、バリエーションに富んでおり、様々な治山施設を見ることのできる現場でした。

多くの課題がある中で、この会議だけで解決策が見つかるというわけではありませんが、今後の検討にとって非常に有意義な会議となりました。

写真1　検討会の様子

写真2　現地視察の様子

写真3
視察現場遠景

【治山課　萬谷 亘哉】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線（3167）治山課まで

森林・林業関係イベントカレンダー（1～2月）

林業者向け

開催日	行事名等	内　容　等	開催場所 問い合わせ先
1月24日㈫～ 1月25日㈬	**リスクアセスメント担当者安全教育**	●講習時間：24日（林業）9:20～17:30 25日（製造業）9:20～17:30 ●申　込：開催日の2週間前まで ●受講料：11,800円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東2-5-6） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-272-3858
2月8日㈬	**刈払機取扱作業者安全衛生教育**	●講習時間：9:20～15:30 学科 15:30～16:30 実技 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：11,200円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東2-5-6） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-272-3858
2月9日㈭～ 2月10日㈮	**伐木・チェーンソー作業従事者特別教育**	●講習時間：9日 8:30～17:40 学科 10日 8:30～17:30 実技 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：18,700円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	9日（学科）ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東2-5-6） 10日（実技）岐阜県森連岐阜支所（関市倉知字物見山4660-16） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-272-3858
2月21日㈫～ 2月24日㈮	**フォークリフト運転技能講習** 受講資格：自動車普通運転免許所持者	●講習時間：1日目：8:30～16:30 学科 16:30～17:30 学科試験 2～4日目：8:00～17:30 実技・試験 ●申　込：開催日の20日前まで ●受講料：31,860円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	岐阜県森連岐阜支所（関市倉知字物見山4660-16） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-272-3858

コラム　COLUMN

10月に森林文化アカデミーに異動し、県職員になって初めて、「森林のたより」編集委員になりました井戸です。残りの半年間宜しくお願い致します。

12月号に掲載していますが、10月9日（日）、昨年全国育樹祭を開催した揖斐川町において、「全国育樹祭1周年・全国植樹祭10周年記念大会」を開催しました。

当日は、1年前の天候とまったく同じように、直前まで降っていた雨は式典が始まるころにはすっかり上がり、静寂な森の中での開催となりました。

昨年、皇太子殿下により全国植樹祭では初めてとなる『間伐』が行われたお手入れ会場には、皇室三代にわたる森林づくりを写真パネルにして埋め込まれた記念碑と全国育樹祭の会場である谷汲緑地公園には、知事が揮毫した「育樹の碑」の記念碑が設置されました。

来賓による除幕は、多くの拍手の中無事成功し、安堵とともに感動がありました。揖斐川町を訪れることがありましたら、一度ご覧下さい。

この記念大会を契機に、皆さん一人ひとりが森林を守り育て、活用し、次の世代へ引き継いでいく「100年先の森林づくり」の礎となっていくことを祈念しています。

「森林のたより」編集委員　井戸 好美

2月1日発行

連載
- 山の歳時記（138）
- 山のおじゃまむし（307）

森の名手・名人

清流と森と親しむ
- 森林と人を活かす知恵（50）

木と親しむ
- 岐阜県の公共木造建築（50）

地域の人

清流の国ぎふ森林・環境税

わがまちの森林・環境行政（2）

森林・林業技術
- 研究・普及コーナー

市況情報　その他

2月号予定

木材市況　県森連　岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位：円（1㎥当たり）

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1618回 岐阜共販所 12月6日	すぎ	3 m	16～18㎝	12,000	－	単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格
		4 m	16～18㎝	10,500	－	
			20～22㎝	11,200	－	
			24～28㎝	11,000	－	
			30㎝以上	12,500	40,000	
		6 m	16～18㎝	14,000	－	
	ひのき	3 m	16～18㎝	17,000	－	
			20㎝以上	15,500	38,000	
		4 m	16～22㎝	16,000	－	
			24～28㎝	14,000	35,000	
			30㎝以上	18,200	－	
		6 m	16～18㎝	27,000	－	
第1198回 飛騨共販所 12月7日	すぎ	3 m	16～18㎝	11,000	－	
		4 m	22～28㎝	11,000	－	
			30㎝以上	11,000	90,000	
	ひのき	3 m	16～18㎝	17,500	－	
		4 m	20～28㎝	16,500	－	
			30㎝以上	18,000	31,600	
		6 m	16～20㎝	24,000	－	
	まつ	4 m	24～28㎝	10,000	－	
			30㎝以上	13,000	18,000	
	ひめこ	4 m	24～28㎝	15,000	－	
			30㎝以上	15,000	－	
		5 m	30㎝以上	23,000	33,000	
	くり	4 m	20㎝以上	20,000	30,000	
第1530回 東濃共販所 12月8日	すぎ	3 m	16～20㎝	12,100	13,100	
		4 m	22～28㎝	11,500	13,000	
			30㎝以上元	13,300	18,000	
	ひのき	3 m	16～20㎝	16,700	22,000	
			22～28㎝	14,700	19,700	
			30㎝以上元	20,000	124,000	
		4 m	13㎝以下	9,000	－	
			22～28㎝	14,700	20,200	
			30㎝以上元	21,000	60,000	
		6 m	18～20㎝	27,000	－	
	まつ	4 m	22～28㎝梁	7,500	－	
			30㎝以上元	10,000	－	

木材市場

製品の動きは悪く価格は弱含み

【商況】

スギは4m良材、3m並材ともに16～30㎝の需要が旺盛。ヒノキ並材の柱・土台はともに需要があり、特に4m16～22㎝が旺盛。マツは冬季の需要期を迎えてきた。（岐阜）

スギ元玉良材は引き合いが強く旺盛。ヒノキ並材の柱・土台はともに強含みで大幅に不足。大型工場向けについても需要増。広葉樹は相変わらず人気で、強気である。（飛騨）

ヒノキ元木良材（高齢材及び枝打材（特殊材）2m・3m・4m。6m）は横ばい。ヒノキ並材は3m、4mとも22～28㎝弱含み。スギは全般的に品薄、4m元木良材は応札多くなんとか横ばい、二番玉は弱含み、3m、4mとも16～28㎝弱含み。枝虫材等、欠点材は売りにくい。（杉については、県内新工場稼働につき今後原木の流れが良くなるが、荷不足感が強い。）（東濃）

製品卸売標準価格（11月期）

（単位：円）

樹種	用途	寸法（mm） 長	巾	高	等級	m³当り価格	（本（枚）単価）	前月比較
スギ	柱	3000	105	105	1等	55,000	（ 1,819）	→
	間柱	3000	105	30	1等	55,000	（ 520）	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	（ 2,867）	→
	柱	3000	120	120	特等	60,000	（ 2,592）	→
		3000	120	120	（東濃桧）特等	70,000	（ 3,024）	→
		6000	120	120	特等	120,000	（10,368）	→
Wウッド集成材	柱	3000	105	105	国産5層	59,000	（ 1,950）	→
		3000	120	120	国産5層	60,000	（ 2,580）	→

※日刊木材新聞調べ（名古屋標準相場　全てKD材）

外材市況（11月期）

1㎥当り（価格単価：100円）

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	281	米栂	ヘム（アラスカ産）	277
	コースト（目荒）	277	米ひば	ポール	281

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場（径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場）

木材用語一口メモ

重ね梁（かさねばり）

2本以上の木材を重ねて接着剤やボルト等で接合し、水平方向に架けて使用する構造材。無垢材と同等の耐力を発揮させるためには、重ね梁の上下の梁を接着して、ずれが生じないように一体化する必要があります。

（参考）日刊木材新聞社　木材・建築用語辞典